【一般演題Ⅰ】

内視鏡看護師の技術習得状況可視化と評価方法確立への取り組み

伊万里有田共立病院
○山口　　進、齊藤　千夏

【はじめに】

近年、内視鏡のニーズが高まり、ますます高度化、複雑化し検査件数は増加している。Ａ病院の2020年度内視鏡件数は、上部内視鏡3,121件、下部内視鏡1,188件、ERCP104件である。内視鏡業務は、検査に合わせた内視鏡器具の準備、問診、検査前処置、検査中の医師の操作介助、検査前から検査後の看護、緊急内視鏡の対応、さらには内視鏡器具の洗浄と多岐にわたり煩雑な環境である。

自部署において新配属者の技術習得状況の把握が出来ていない現状があり、より安全な看護を提供するためには、技術習得状況を明確にし、評価に繋げていくことが必要であると考えた。

今回、技術評価表と経験値確認表を作成し、新たに内視鏡へ配属された看護師へ活用することで、技術習得状況を可視化し評価方法を確立したためここに報告する。

【目的】

内視鏡新配属者の教育に技術評価表、経験値確認表を活用し可視化することで技術習得状況を把握し評価方法が確立できる。

【方法】

2020年４月～2021年10月

対象者：内視鏡実務経験２年未満の新配属看護師３名、（１名は専任、２名は他部門兼任し期間半年）

方　法：１．技術評価表、経験値確認表を作成。２．新配属者へプリセプターを配置し１ヶ月、3ヶ月、６ヶ月、12ヶ月に自己評価、他者評価を実施し進捗状況の把握と問題点の抽出。３．実技についてはプリセプター以外の看護師も関わりながら実技チェックを実施。目標回数を設定し指導を受けながら実施後は1人立ちでの実施の回数を１年間チェックしてもらう。技術評価表と経験値確認表使用後の新配属者へのアンケートを実施。

【結果、考察】

技術評価表、経験値確認表活用前の内視鏡新配属者は技術習得状況が可視化出来ておらず、適切な評価も出来ていなかった。また、技術において問題点の抽出も出来にくい状況であった。今回、自己評価することで、技術習得状況を認識でき、またプリセプターが評価毎に経験実績を確認することで、スムーズな実践へ繋げられるようスケジュールを立てることが出来た。アンケート結果からも「学習の目標が立てやすい」「経験値が把握でき意欲が持てた」「自信をもち検査、処置に対応することが出来るようになった」などの意見が聞かれた。結果を可視化することで習得度とそれに基づく課題の明確化ができた。

新配属者が内視鏡検査・治療介助が出来るようになっても、内視鏡に関連した事柄を熟知するには経験と時間を要する。今後は、評価方法を基に指導計画作成にも活用し内視鏡新配属者教育体制の構築に向けて取り組んでいきたい。

【結論】

技術評価表、経験値確認表を活用し指導することで、新配属者の段階的な技術習得状況が把握、評価できた。